

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

フレーベルに学ぶ
菅原陽子

小論
ことばという窓口から
考える
瀬川千津子 伊藤幸子

礼拝のお話
川上尚子



2025 MAY.

5

神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。

聖書 口語訳聖書・創世記1章27

形もない、むなしい闇の中から、神はすべてのものを呼びだされた。光を呼びだされ、天と地を呼びだされ、そこを飾り、そこに住むすべての草と木と生きものと呼ばれた。そして、創造のみ業の最後に人をつくられたのである。それは、特別な創造のみ業であった。聖書はそのことを「神は自分のかたちに人を創造された」と表現する。

すべてのものは神の意志により、そのご計画に従ってつくられた。しかし、その中で「神のかたち」にかたどってつくられたのは人間だけだった。「神は自分のかたちに人を創造された」—この聖書の言葉に、私たちが、神の特別な被造物であることを聞き取らねばならないと思う。そこで、「神のかたち」と言われているのは、単なる外なるかたちのことではない。むしろ、内なるかたち—意味と内実をさしていると思われる。神はすべての生きものをつくられたが、それらの生きものは神の呼びかけに答えるものとしてはつくられていなかった。神は人間だけを神の呼びかけに答えるものとしてつくられたのである。神に向かい合う存在、神の思いに響き返す存在、神に応答する存在、それが、「神のかたち」という言葉の意味であろう。

神の呼びかけに答えるというのは、自分の存在を神の恵みとして受け入れて生きることであり、その思いを祈りにおいて神の前にさしだしつつ生きていくということである。ギリシア語で人間のことをアンスロポスという。「祈る存在」という意味だと言われる。それは、人間は生まれながらに、その心に祈りを持っているという意味であろう。幸せでありたいと願い、より良い生活をしたいと願う。もっと具体的に言うならば、この仕事をぜひ成功させたいと思い、この病気が良くなって欲しいと願う。そうした切実な願いに動かされて、私たちは働き働く。そのような意味で、人間はまことに「祈る存在」である。しかし、ただそれだけであってはならない。その願いが清められ、高められ、生きることの意味を改めて深く考えることがおきてこなければいけない。そのようにして、人間が単なる「祈る存在」から「神に祈る存在」に深まっていくとき、人間は自分が神の特別な被造物であることを知ることができるのではなからうか。

人間が神に応答するものとしてつくられたということは、また、人間と人間が互いに応答し合うものとしてつくられたということを内に含んでいる。人間は孤独な存在として、また孤独に耐える存在として創造されたのではない。一人ひとり互いに独立したものとして、しかも互いに依存し合うものとして創造されたのである。互いに独立しつつ、向かい合い、響き合う在り方は、すべての人間関係、社会における様々な人間関係の在り方を規定している。神が私たちに欲し、求めておられることは、私たちが孤独の中に生きることではなく、愛の中に生きること、響き合いつつ生きることである。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）

1974年『キリスト教保育』誌5月号より

新共同訳では「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」です。一部省略、要約してあります。

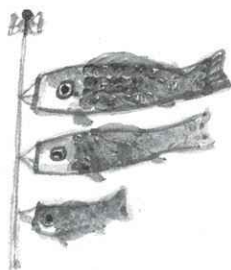
幼子とともにキリストへ

キリスト教保育

第674号5月号

年主題

ともに



幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 アンガーマネジメントで

感情を整える 小瀬朝子

〈論説〉 フレーベルに学ぶ(2) 菅原陽子

子どもの祈り

〈小論〉 “ことば”という窓口から

考える 瀬川千津子 伊藤幸子

聖書にきく・お話 黒米理恵

【カリキュラム】

5月 月のねがい表

心にとめて 児玉純子

実践報告 Y M C A 加茂こども園

実践からの学び 犬童れい子

心にとめて 半澤納帆

実践報告 西南学院舞鶴幼稚園

実践からの学び 国府田郁絵

第66回キリスト教保育者協議会報告

22 16 15 6 4 3 2

42 41 36 34 33 28 26 25



絵本のとびら 大谷真理子

〈連載〉 私たちのキリスト教保育 大橋寿美

〈連載〉 せんせいのお話ききたいな 菊野秀樹

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 今野 瑛

礼拝のお話 川上尚子

風 相良郁子 編集子 矢部尚子

連盟だより

表紙絵 田中慎子 カット 中畝治子 小鯛みのり 中川晶子
藤安初枝 松成真理子 金井ユリ

67 66 57 55 52 48 44 43